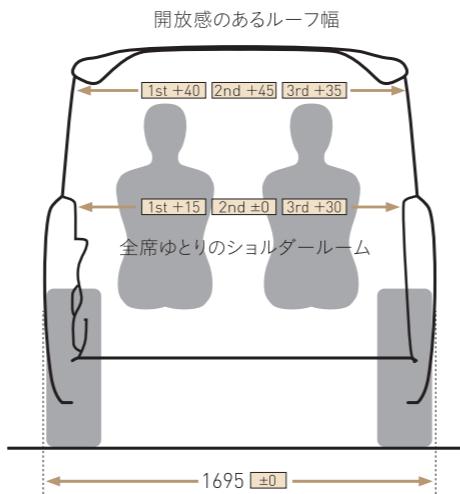
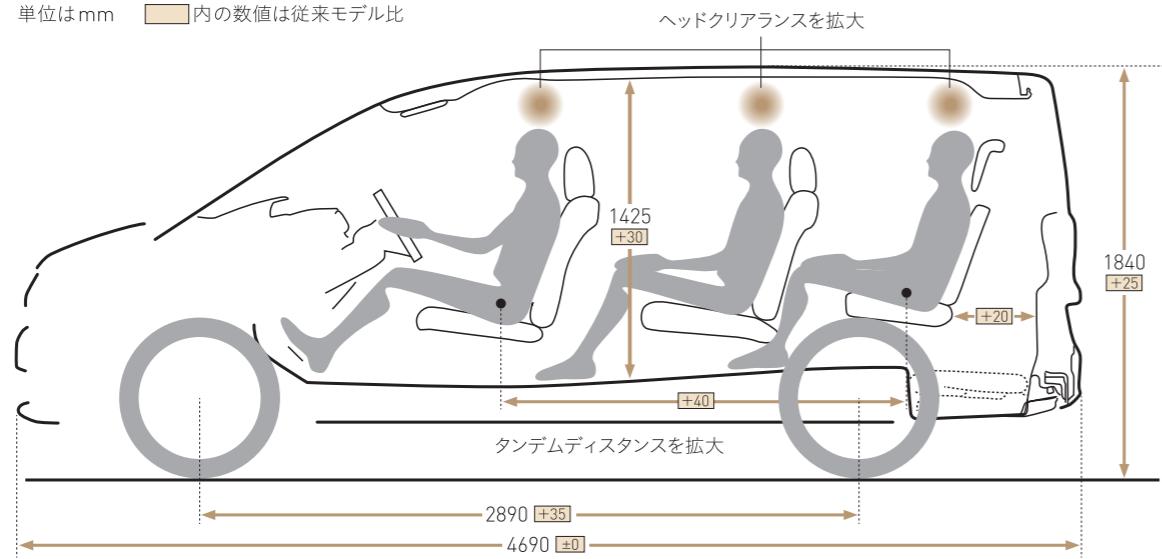


# すべての席で、ゆったりとくつろげる。 みんなにうれしい、おもてなし空間を創造しました。

日常での使い勝手を考え、5ナンバーサイズにこだわりながら、すべての席でゆったりとくつろげる室内空間を創造すること。この課題を解決するために、Hondaが培ってきたパッケージング技術のすべてを投入し、エンジンルームの短縮やホイールベースの延長をはじめ、全高を高く、ルーフ幅を広げるなど、居住スペースを極限まで拡大。その上で、視覚的にも広さを感じられるよう細部に至るまで工夫を凝らしました。結果、1列目2列目はもちろん、3列目でもゆったりとくつろげる、全席快適空間を創造しました。



■ パッケージ図 G(FF)メカーオプション非装着車  
単位はmm ■ 内の数値は従来モデル比



## 5ナンバー<sup>\*</sup>の枠を守りながら、居住スペースを最大化。

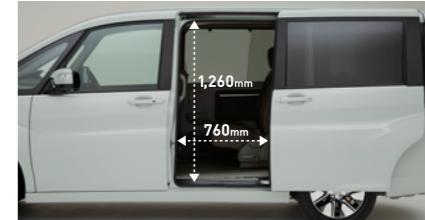
5ナンバーサイズの全長、全幅のなかで、いかに居住スペースの拡大を図るか。この課題に対し、従来モデル比で、エンジンルームを40mm短縮し、ホイールベースを35mm延長。その分、1列目と3列目の席の距離を40mm長く、荷室前後長も20mm延ばしました。加えて全高を25mm上げるとともに、室内高はそれを上回る30mm拡大。ルーフ幅も、1列目席で40mm、2列目席で45mm、3列目席で35mm拡大し、ヘッドクリアランスだけでなく肩まわりのゆとりを広げています。



<sup>\*</sup> SPADAは3ナンバーサイズ

## ■ リアスライドドア開口部の拡大により、乗降性を向上。

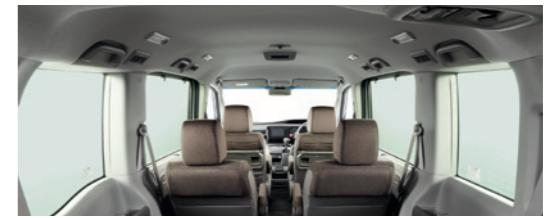
ホイールベースの延長、全高拡大、低床化の徹底により、リアスライドドアのボディ側開口部の高さと幅を広げました。ただし、実際の使い勝手を考えると、開口部が大きいほど、開閉操作が大きくなり、時間もかかります。そこでステップワゴンでは、スムーズに乗り降りでき、ベビーカーなどの積み降ろしが簡単にできることを要件に、必要にして十分なサイズとしました。



● 数値は、Honda測定値

## ■ 視覚面からも広さを感じさせるデザインの工夫。

室内幅の拡大をもたらしたのが、サイドウインドウを立たせたデザインです。空間効率を高めるためサイドウインドウを立たせていくと、外観が商用車のように見えてしまいがちですが、デザインに工夫を凝らすことでこれをクリア。室内においても、ルーフ面とサイドウォールの面をなめらかにつないで一体に見せることで、空間に広がりを与えています。また、リアドアを開けた際にルーフライニングが見えると広く感じることを考慮し、ドア開口部上端の高さを設定しています。



## ■ 少ないチカラで開閉できる、パワースライドドア。

ドア内部の機構を軽量化するとともに、ドライブユニットにパワースライドドアとしては初のDCブラシレスモーターを採用。これにより、開閉のためのクラッチが不要となり、大幅な小型・軽量化を実現しています。またワンタッチパワースライドドアにしたこと、操作力は従来モデルの1/6に。Hondaスマートキーと連動して、スマートキーを携帯してドアハンドルを引けば、施錠状態から全ドアならびにテールゲートの解錠とともに、パワースライドドアが開きます。



## ■ 交差点やカーブでの優れた運転視界を。

フロントピラーによる死角を減らすため、衝突安全性能を確保しながら、断面を極細化。その上で、三角窓を大型化することで斜め前方の視界を向上させ、交差点やカーブでの見通しをよくしています。また助手席側にサイドビューサポートミラーも設定し、縦列駐車時の路肩寄せや狭い道でのすれ違いなどの視界をサポート。さらに、リア左側のガラス面を大きくし、後退時などの視界にも配慮しています。



## ■ 荷物の積み降ろしがラクな、低い開口部地上高と大きなテールゲート開口部。

テールゲート開口部の形状をよりきれいなスクエアに。また、開口部の地上高を従来モデルより85mm下げ、445mmとしました。これにより、大きいモノや重いモノの積み降ろしが、さらにラクになりました。



● 数値は、Honda測定値